

第57回日本泌尿器科学会中部総会（奈良）

シンポジウム「排尿機構—臨床から基礎へ—」

—司会の言葉—

横山 修¹, 布施 秀樹²¹福井大学医学部泌尿器科学講座, ²富山大学大学院医学薬学研究部腎泌尿器科学講座

LOWER URINARY TRACT FUNCTION : FROM BEDSIDE TO BENCH

Osamu YOKOYAMA and Hideki FUSE²¹The Department of Urology, Faculty of Medical Science, University of Fukui²The Department of Urology, Graduate School of Medicine and
Pharmaceutical Science and Research, University of Toyama

The Neurogenic Bladder Society in Japan has published several guidelines aiming at public education and shared care. Therefore, the primary care for patients with lower urinary tract dysfunction (LUTD) has been performed by general physicians. Patients who have difficulty after initial treatment are sent to our urologists. We have to possess both the data from their prior check-ups and information about new therapeutic measures for their treatment. This symposium, entitled “Lower Urinary Tract Function : from bedside to bench”, was planned to clarify the clinical problems encountered in the treatment of patients with LUTD and for solving them through experimental techniques obtained by basic research.

(Hinyokika Kiyo 54 : 447, 2008)

Key words : Lower urinary tract, Dysfunction, Basic research

本シンポジウムを企画するに当って

この数年で下部尿路機能障害 (lower urinary tract dysfunction : LUTD) に対する新規治療薬が登場し、この市場は大変な活況を呈している。過活動膀胱に対する抗コリン薬と下部尿路閉塞に対する α_1 遮断薬は蓄尿障害と排尿障害の治療薬として、効果と副作用の面から、より uro-selectivity の高い薬剤として開発された。また下部尿路機能障害に対する各種診療ガイドラインが刊行されたこともあり、この領域のプライマリーケアは一般医家の手に移ったと言っても過言ではない。しかし抗コリン薬でも α_1 遮断薬でも治療できない抵抗性を示す患者は少なからず存在し、そのような難治例が泌尿器科専門医に紹介される機会が増えているのも事実である。われわれは紹介先の専門医として、その症例の病態を正確に把握し適切な処置をしなければならない。われわれはそれに応えられる知識と治療手段を持ち合わせているのだろうか。

本シンポジウムでは LUTS (lower urinary symp-

toms : LUTS) 症例の日常診療で遭遇する問題点・疑問点を下部尿路機能障害という病態の根本的メカニズムにまで遡って、基礎研究の手段を用いて解決していただく。特に前立腺肥大症のような下部尿路通過障害に伴う蓄尿障害は臨床で最も多く遭遇する病態であるが、なぜ α_1 ブロッカーが効果あるのか、その作用部位はどこか、抗コリン薬は有効か、難治例には何を使用したらよいのか、など課題は尽きない。基礎研究のための基礎研究に偏らないため、ここでは4人のシンポジストの先生方に実際の臨床例あるいは臨床データを呈示いただいた上で、その問題点を明らかにしていただき、膀胱あるいは前立腺に生じている研究室レベルでの知見を解説していただいた。さらに得られた基礎研究の成果を臨床のレベルにまで引き上げて応用するにはどうしたら良いのか、将来の展望についても語っていただいた。

(Received on January 23, 2008)

(Accepted on January 29, 2008)